

【概要】

令和6年3月5日(火)に「令和5年度 愛知県道路メンテナンス会議(第2回)」を開催しました(web開催)。

道路施設の老朽化対策を円滑に推進するために、道路メンテナンス会議では、「点検結果や修繕状況に関する愛知県内の道路メンテナンス年報」や「令和5年度の愛知県独自の取組及び令和6年度の実施方針案」等の意見交換を行いました。

【参加機関】

国土交通省中部地方整備局、名古屋国道事務所、中部道路メンテナンスセンター、愛知県、名古屋市、愛知県道路公社、名古屋高速道路公社、中日本高速道路(株)、市町村(48団体)、公益財団法人愛知県都市整備協会 68名
事務局 10名

【開催状況】



WEB状況(資料共有)

現地調査状況



講評抜粋

- 今後変形の進行で突発的に橋が崩落してもおかしくない状態である可能性も考慮すると通行止めの判断は適切であった。
- 支点が移動している場合には、補修・補強をしても支点の移動を止めることは困難であるため撤去の可能性も考慮して今後の対応を判断していく必要がある。判断をするためには橋全体の形状を把握するために測量等を早急に行うと良い。
- 測量においては、キャンバーや橋面の傾き、両方のアーチアバットの位置や軸線、支点の位置、格点の位置を把握するのがよい。
- アーチアバット周辺の岩の種類、性状や植生が異なっているように見えたことから、地質情報なども調べることで原因を把握するうえで有効と考えられる。
- 既に危険な状態にあることも考えられ、調査にあたって少なくとも橋に負荷をかけるような方法は避けるのがよい。例えば、点検車を載せるなども極力避けるのがよい。
- 周辺地盤の動きも支点の移動に関係している可能性もあり地盤が大きく変位し落橋に至ることが想定される。橋の動きを監視しつつ、早めに測量や両岸の周辺地盤調査をするのがよい。

